

授業概要

日本経済が成熟し、かつ低価格を武器とする新興工業国製品に対する市場競争力が低下してきたことによって、日本企業は従来のように生産コスト削減と品質向上という生産現場の努力だけでは、グローバルな市場競争力を維持することができなくなってきつつある。このような新たな外部環境に適応するために、日本企業は生産現場で「いかに」生産するかだけでなく、「何を」生産するかを考えることによって新たな活路を見いだそうとしている。具体的には、付加価値の高い差別化された製品の開発と生産である。しかし、それは簡単な道ではない。

本講義では、このような困難に直面している今日の日本企業の戦略を、「低価格戦略」対「高付加価値戦略」という視点から論じる。

授業計画

第 1 回	はじめに
第 2 回	狭義の生産管理と広義の生産管理
第 3 回	低価格戦略とは
第 4 回	低価格戦略のためのジャストインタイムシステム、POS
第 5 回	低価格戦略のためのジャストインタイムシステムを支える5S
第 6 回	低価格戦略のための人件費の切り下げの進行
第 7 回	海外生産による人件費切り下げ
第 8 回	低価格戦略のための自動化と産業ロボット
第 9 回	低価格競争の事例 (流通業界等)
第 10 回	低価格競争の事例 (ファストファッション等)
第 11 回	低価格競争の限界 (流通業界等)
第 12 回	低価格競争の限界 (ファストファッション等)
第 13 回	高付加価値戦略の事例 (IOTの利用等)
第 14 回	高付加価値戦略の限界
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

グローバル化の時代を迎えて日本経済、日本企業が直面している多くの困難な諸問題、およびその解決のための努力や経営戦略について、関心を持つようになり、日々の経済の動きを丹念にフォローできる目を養うこと。

履修上の注意

経済の動きを理解する上で大切なことは、リアルタイムで経済の動きを見ることができると目を養うことである。そのために、新聞、主要な企業のプレスリリースや報告書を読むように努めて欲しい。

予習・復習

毎回の講義で配布するプリント等の資料をベースとして、各自で関連のデータや資料を発見するように努めることを求める

評価方法

基本的に学期末テストにより評価するが(70%)、部分的に日々の受講態度も考慮する(30%)。

テキスト

テキストは用いない。参考資料として、ウェブに公開された企業の報告書などを用いる。